

■ PCN だより

PCN Volume 70, Number 3 の紹介

Psychiatry and Clinical Neurosciences, 70 (3) には, Review Article が 1 本, Regular Article が 2 本掲載されている。国内からの論文は著者による日本語抄録を, 海外からの論文は PCN 編集委員会の監修による日本語抄録を紹介する。

(国内からの論文)

Review Article

Diffuse neurofibrillary tangles with calcification (Kosaka-Shibayama disease) in Japan

K. Ukai and K. Kosaka*

*Department of Psychogeriatrics, Kamiida Daiichi General Hospital, Nagoya, Japan/Department of Psychiatry, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan

日本における「石灰沈着を伴うびまん性神経原線維変化病 (小阪・柴山病)」

石灰沈着を伴うびまん性神経原線維変化病(DNTC, 小阪・柴山病)は, おもに初老期に発症する稀な認知症性神経変性疾患の1つである。DNTCという疾患名は, 1994年に小阪によって初めて提唱された。これまで文献的には, 日本においては, 26症例の臨床病理学的検討例と21症例の臨床例が報告されているが, 海外での報告は極めて少ない。この原因として, 海外では, この疾患に関する認識が不十分であるため, 見逃されている場合が多いと推察される。日本におけるDNTCの報告例を総括し, その臨床病理学的特徴と問題点を明らかとし, さらに新たな臨床診断基準を提唱する。

(海外からの論文)

Regular Article

1. Electrophysiological correlates of emotional meaning in context in relation to facets of schizotypal personality traits : A dimensional study

S. Terrien, P. Gobin, G. Iakimova, A. Coutte, F. Thuaire, V. Baltazart, P. Mazzola-Pomietto, and C. Besche-Richard*

*Cognition, Health, Socialisation Laboratory, University of Reims Champagne-Ardenne, Reims, France

各種の統合失調型性格特性と文脈における情動的意味との電気生理学的相関：多元的研究

【目的】本試験は, 統合失調型集団を対象に, 文脈情報と社会情報を統合する際の情動情報処理を調整する神経認知処理について検討することを目的として行われた。【方法】健常者131例を対象に, 統合失調型パーソナリティ質問票 (Schizotypal Personality Questionnaire) を用いて評価し, 言語課題施行中の事象関連電位を記録した。言語課題では, 社会的状況について書かれた何組かの対となった短い文章を参加者に読ませた。最初の文では登場人物のポジティブまたはネガティブな心の状態が暗示的に示された。次の文は最初の文と情動が一致または逸脱する内容とした。【結果】本研究のサンプル全体を通じ, N400作用は左側部位より右側部位の方が大きいことが示されたが, 後期陽性成分は左側部位でのみ観察された。相関について, ポジティブな文脈に一致した内容の試験文に反応して, 陽性および総合統合失調症症状とN400の振幅との間に負の相関があることが認められた。また, ネガティブな文脈に一致した内容の試験文に反応して, 陰性統合失調症症状と後期陽性成分の振幅との間に正の相関があることが示された。【結論】本試験の結果から, 各種の統合失調型性格特性は, 早期および後期に動員される神経認知処理のいずれにおいても情動的意味の統合に影響したことが示唆された。

2. Reading simple and complex facial expressions in patients with major depressive disorder and anxiety disorders

S. Yoon*, H. S. Kim, J. -I. Kim, S. Lee and S. -H. Lee

*Clinical Emotion and Cognition Research Laboratory, Goyang, Korea

大うつ病性障害および不安障害患者における単純な表情および複雑な表情の読み取り

【目的】顔の表情を読み取ることは、心理的幸福 (well-being) に重要である。本試験では大うつ病性障害 (MDD) および不安障害 (AnD) を有する患者の単純または複雑な快または不快の情動に関する表情認知を検討した。【方法】本試験には MDD 患者 (n=

37), AnD 患者 (n=36) および対照として健常被験者 (HC) (n=40) が参加し、表情認知の正確性を算出した。【結果】MDD 患者の認知の正確性は、HC と比較して有意に低い値を示した。MDD 患者は単純な情動に対しては AnD 患者や HC と比較して、複雑な情動に対しては HC のみと比較して、有意に低い認知正確性を示した。AnD 患者と HC は単純な情動に対して同等の認知正確性を示した。しかしながら、複雑な情動の認知正確性について、AnD 患者は MDD 患者または HC のいずれとも有意差を示さなかった。【結論】MDD 患者および AnD 患者は、表情に対して独特の認知困難を有する。MDD および AnD 患者における複雑な情動に対する認知については、さらに研究する必要がある。